

大 韃 川 河 川 整 備 計 画

平成15年3月

熊 本 県

大靱川河川整備計画

目 次

第1章 対象流域と河川の現況	1
第1節 流域の概要	1
第2章 河川整備計画の目標に関する事項	3
第1節 計画対象区間	3
第2節 計画対象期間	3
第3節 洪水、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する事項	3
第4節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項	3
第5節 河川環境の整備と保全に関する目標	4
第3章 河川の整備の実施に関する事項	5
第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要	5
第1項 河川工事の目的、種類及び施行の場所	5
第2項 河川管理施設の機能	5
第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所に関する事項	5
第3節 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項	5
第1項 超過洪水対策	5
第2項 河川情報の提供、流域における取り組みへの支援等に関する事項	6

(参考図)

河川計画位置図

河川計画横断図

第1章 対象流域と河川の現況

第1節 流域の概要

大鞘川は、その源を熊本県八代市北部の竜峰山（標高517m）に発し、夜狩川等の支川と合わせ八代平野を西流し、八代海に注ぐ流域面積約35km²、幹川流路延長約13kmの二級河川である。

その流域は、八代市、千丁町、鏡町、宮原町の1市3町に及び、八代地方の社会、経済の基盤をなしている。

本流域は、竜峰山等の一部山地を含むが、大部分は不知火海の東部に広がる八代平野の低平地である。山地部は変成岩類や花崗岩類で構成され、平地部は河川によって運搬された土砂や砂礫からなっている。

気候は温暖で、年平均気温が16～17℃と温暖で、年間平均降水量は約2,000mm程度であるが、6月～7月の梅雨期に集中し、8月～9月は台風の影響を受ける。

流域の北東に位置する山地部は標高500m前後でV字型の河谷が発達した急峻な地形をなし、斜面にはスタジイやタブノキ等の常緑広葉樹が生育している。この一帯は竜峰山自然公園として古墳や寺院を廻る歴史探訪のハイキングコースが設けられている。その山麓を九州自動車道と国道3号が走り、さらに下流側をJR鹿児島本線及び複数の生活道路が並行している。

平地部は、そのほとんどが数次にわたる干拓事業によって造成されたものである。1,600年頃からの干拓事業は、加藤清正による球磨川遙拝堰の築造によって灌漑用水が確保されたことに始まり、徳川時代から昭和に至る約300年の間に約10,000町歩の干拓地が生まれ、八代平野を形成している。付近には干拓時の悲恋物語を謳った記念碑があり、地域の名所となっている。

現在、平地の大部分は、い草の生産農地として利用されているが、流域の南部は八代市の市街地の一部を含んでいる。八代市は熊本県第2の都市であり、流域内には八代宇城地方拠点都市地域基本計画において、新八代駅（整備新幹線）・八代IC周辺拠点地区が設定されている。

本流域内の人口は約14,000人程度であり、近年の推移をみると、鏡町、宮原町を除き八代市、千丁町は増加傾向にある。また、産業別就業人口の割合では第1次産業が減少し、第2次及び第3次産業の比率が増加傾向にある。

大鞘川はこの干拓平野の中を蛇行しながら緩やかに流れ、中流部で支川夜狩川を合わせ八代海へ注いでいる。河川沿いにはヨシやマコモ等の群落が広がり良好な田園景観を形成している。また、支川夜狩川には保全上重要なヒラモの群落も確認されている。夜狩川合流部付近より下流は湛水域となっており、自然の河岸が多く残る緩やかな流れの中には、コイ、フナ、ナマズ等のほか、保全上重要なカゼトゲタナゴが生息している。

中流部に位置する第二大鞘橋より下流の区間は、既設の堤防が高く、十分な流下能力を有するが、その上流は無堤で、地盤高が低く、ほぼ毎年のように浸水被害を受けている。

近年の主な洪水としては、昭和 57 年、昭和 60 年、昭和 62 年、平成 3 年等があり、このうち昭和 57 年 7 月洪水が最も大きな被害を与えている。

本流域への流入水はほとんどが球磨川遙拝堰から取水された灌漑用水であり、大鞘川の河水は農地からの還元水である。

水質については、第二大鞘橋地点で類型指定（B 類型 BOD3mg/l 以下）がなされているが、平成 4 年と平成 6 年を除いて環境基準を達成しており、近年は 2mg/l 程度の良好な状態で推移している。

第2章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 計画対象区間

河口から二級河川法指定区間の上流端まで約 14.9km 区間を対象とする。

本川大鞘川約 9.9km、支川夜狩川約 3.9km、他支川約 1.1km (河川計画位置図 参照)

第2節 計画対象期間

本計画の対象期間を概ね 30 年とする。

第3節 洪水、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する事項

大鞘川は中上流部において、十分な整備状況まで達していないことから、特に中流部において浸水被害が常襲化している。

本河川整備計画は、洪水氾濫による被害を河川整備により解消することを主な目的として、関連する他事業との調整を図りながら、河川環境に配慮した治水・利水対策を行うものである。

整備にあたっては、流域の人口や資産の状況等を考慮し、概ね 50 年に 1 回発生する規模の洪水を安全に流下させることのできる整備を目標とする。

下流域の高潮対策については、海岸堤防の一連の施設として河口に設置されている大鞘樋門が防潮水門としての機能を果たしている。

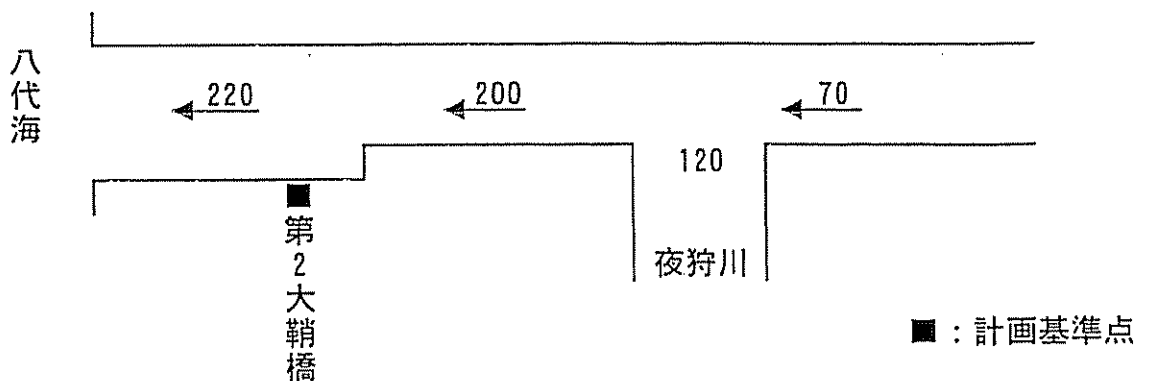


図-2.1 流量配分図 (年超過確率 1/50) (単位: m^3/s)

第4節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

大鞘川流域の灌漑用水は、一級水系球磨川の遙拝堰から取水されている。

流水の正常な機能を維持するために必要な流量は、今後継続的な観測により把握に努め、動植物の生息地または生育地の状況、流水の清潔の保持等を考慮し決定する。

第5節 河川環境の整備と保全に関する目標

整備の対象となる大鞘川上中流部の川岸は、自然の状態が多く残されており、動植物にとって良好な生息・生育環境を維持している。また、大鞘川ではコイ、フナ、ウナギ漁が営まれている他、地域住民にとって釣りや散策等、憩いの場として利用されている。

これらの現況を踏まえ、整備にあたっては河口域を含む河川の生態系、周辺環境、漁業に与える影響を極力小さくするよう配慮した構造や工法を採用し、良好な水辺空間の創出に努める。

第3章 河川の整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

第1項 河川工事の目的、種類及び施行の場所

浸水被害が常襲化している第二大鞘橋上流において、築堤や掘削、構造物の改築等により河川の疎通能力向上を図り、概ね50年に1回発生する規模の洪水を安全に流下させることを目標とする。

なお、工事にあたっては水辺の生態系等、自然環境への配慮、地域への社会的・環境的対応を実施し、施工の影響を極力軽減するよう努める。

第2項 河川管理施設の機能

河川工事により設置される河川管理施設は以下に示すとおりである。

- ・位置：第二大鞘橋からJR鹿児島本線橋まで
- ・延長：大鞘川4,070m 支川夜狩川2,700m
- ・工種：築堤工、護岸工、橋梁等の附帯工等

第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所に関する事項

河川の維持管理に関しては、法河川区間において、災害発生の防止又は軽減、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の保全の観点から適切に行うものとする。

堤防の亀裂や陥没・漏水、護岸の破損や老朽化等、異常箇所が発見、法面の除草等を実施し、河川としての機能維持と沿川地域を含めた環境の保全を図るとともに、樋門・樋管等の構造物の定期的な点検により、必要に応じて各施設の改善や補修を行う。

河床の土砂堆積が著しく、洪水の安全な流下の障害となる場合は、魚類等の生息環境に配慮しながら河床浚渫及び掘削を行い、河道断面の確保を行なう。

また、許可工作物についても、河川管理上支障を与えないよう維持補修の指導を行うとともに、占用された土地の適切な管理が行われるよう指導する。

第3節 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項

第1項 超過洪水対策

計画規模を超過する洪水氾濫を含め、被害の発生が予想される場合は、八代市、千丁町、鏡町、宮原町との連携により、地域の自主的な水防活動や避難経路の確保等に資する降雨・水位等の洪水情報を迅速に伝達する等、被害の軽減に努める。

平常時は浸水予想区域図等の作成・公表等、災害情報の提供を推進するとともに、地域が主体となり推進する避難地・避難路等を明示したハザードマップの作成・公表を積極的に支援する。

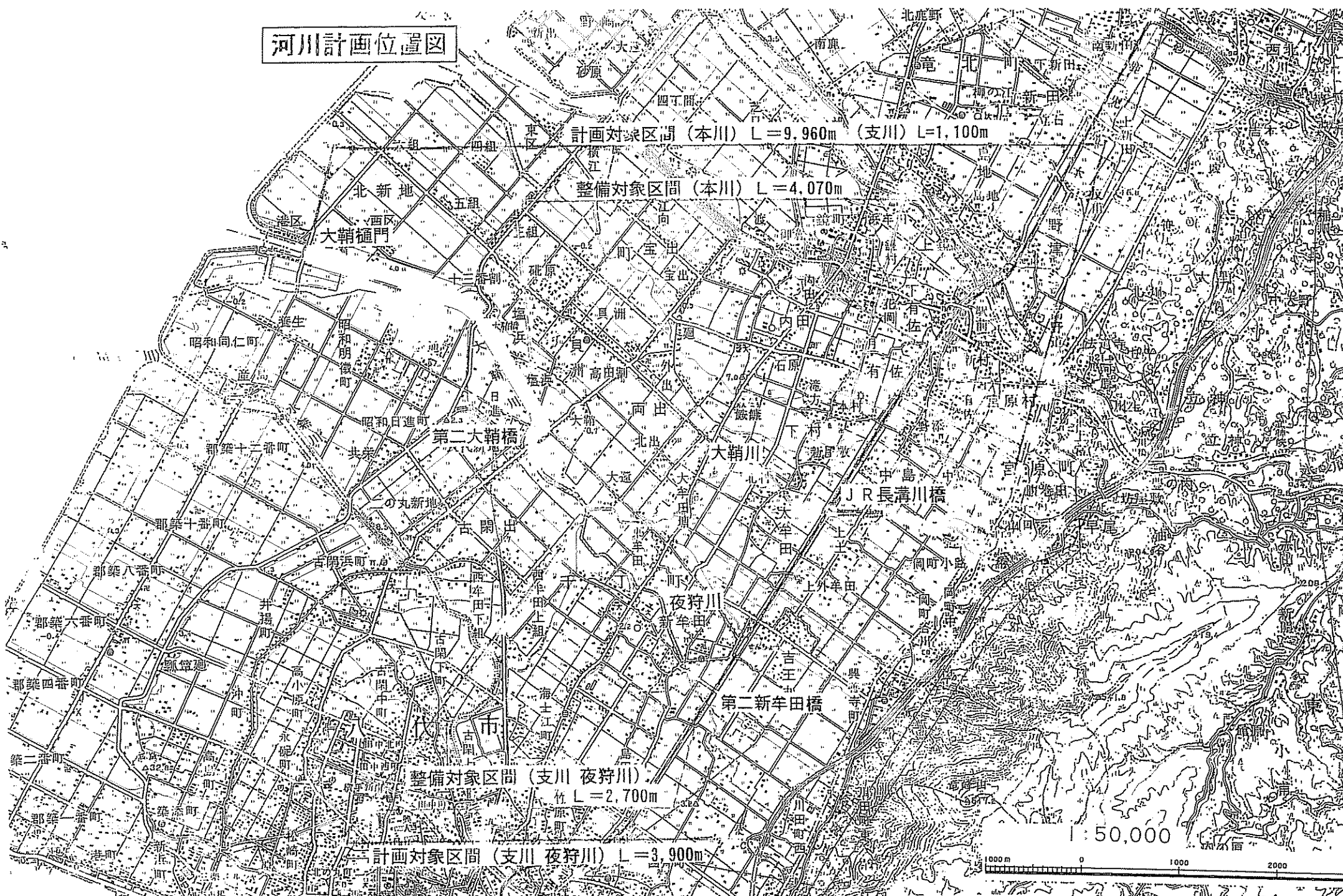
また、防災意識の浸透・高揚を図るため、住民参加型の防災教育、訓練を支援する。

併せて、流域の視点に立った総合的な治水対策を行うため、関係機関との連携を図り、土地利用形態の変更に伴う流出量の増加を抑制する。

第2項 河川情報の提供、流域における取り組みへの支援等に関する事項

河川の機能を存続させ、また、河川環境を保全し、良好な形で将来へ引き継いでいくためには、流域の人々や地域との連携、協力が不可欠である。そのための方策として、河川に関する情報を流域住民に幅広く提供することにより、河川愛護への意識高揚を促すとともに、河川に関わる住民活動を積極的に支援する等、地域社会との連携を図っていく。

河川計画位置図



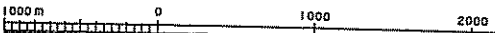
計画対象区間 (本川) L=9,960m (支川) L=1,100m

整備対象区間 (本川) L=4,070m

整備対象区間 (支川 夜狩川) 竹 L=2,700m

計画対象区間 (支川 夜狩川) L=3,900m

1:50,000

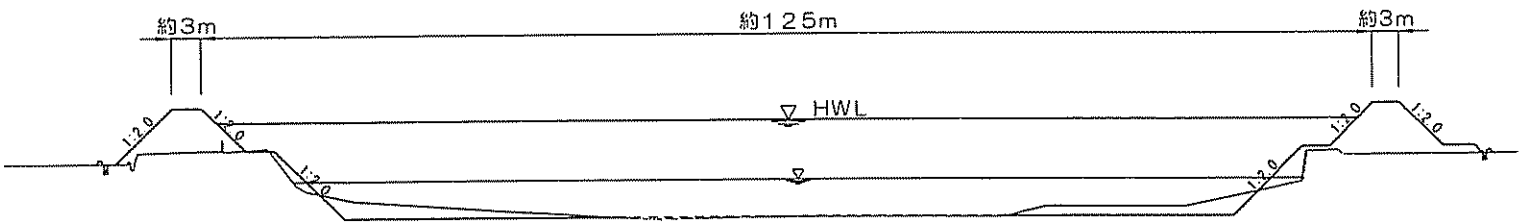


大鞘川 計画対象区間及び整備対象区間

河川計画横断面図

S=1:800 (横)
S=1:400 (縦)

大 鞘 川
第二大鞘橋付近(3K700)



夜 狩 川
掛樋橋付近(OK800)

